

光星アベックV 男女とも 2年ぶり

バスケットボール

全国高校選手権 県予選最終日

第72回全国高校バスケットボール選手権県予選は最終日の27日、三沢市国際交流スポーツセンターで決勝を行った。男子は八学光星が連覇を狙う弘前実を90-65で破り2年ぶり3回目、女子も八学光星が柴田学園を59-

58を下し2年ぶり2度目の優勝を飾り、全国切符を手にした。

男子は八学光星が終始圧倒。第2クォーターに弘前実の反撃を受けたが後半は立て直し、王座を奪い返した。女子は八学光星が序盤から柴田学園にリードを許す苦しい展開。粘り強い守備から第4クォーターに逆転し、

そのまま逃げ切った。全国高校選手権は12月23-29日、東京都で開かれる。藤林全晴

そのま逃げ切った。全国高校選手権は12月23-29日、東京都で開かれる。藤林全晴

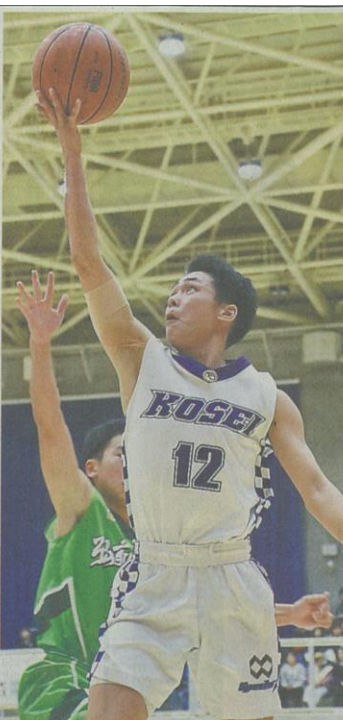
八学光星 85 84 弘前実 89 82 柴田学園 59 58 八学光星 85 84 弘前実 89 82 柴田学園 59 58

八学光星 85 84 弘前実 89 82 柴田学園 59 58

八学光星 85 84 弘前実 89 82 柴田学園 59 58



【男子決勝・八学光星—弘前実】第4クォーター、八学光星の菅藤がシュートを決め、85-63と突き放す（写真右）



【女子決勝・八学光星—柴田学園】第4クォーター、ダブル突破した八学光星の吉田がシュートを狙う（同左）

女子決勝は、八学光星が1点差で接戦を制した。攻守にわたってチームを支えた主将の吉田は「プレッシャーがかかる場面でも試合を楽しめた。勝ちにこだわるよりも、その時でいいことをコツコツできたのが勝因」と胸を張った。立ち上がりから柴田学園の猛攻を受け最大12点のリードを許したが、「苦しくても自分たちの長所を出せるチーム。集りはなかったと小野寺監督。言葉通り、持ち味の守備で流れを引き寄せ、終盤逆転した。インターハイ県予選ではベスト8で敗退。「ノースードからの逆襲」を

昨年と同じ顔合わせとなった男子決勝は、八学光星が雪辱を果たした。主力の3年生が多く引退し、新体制で臨んだ。八学光星の佐々木監督は「選手同士の組み合わせでうまくいかなかった部分もあったが、自分たちの力を発揮してくれた」と選手をたたえた。試合は八学光星が序盤から主導権を握った。180センチの3年・古川と188センチの2年・荒木を中心にリバウンドを立て続けに奪取。第2クォーターに弘前実の3点シュートに手を焼いたものの、堅守からの速攻で突き放し、25点差をつけ勝利した。2年で主将を務める黒澤は「チームはまだまだ成長途中。もともと結束を強めて、全国初勝利をつかみたい」と誓った。

苦境にひるまず逆転

合言葉に2度目の全国出場を目指してきた。吉田「全国で一つでも多く勝ちたい」と笑顔を見せた。